

2020年3月23日
株式会社インプレスR&D
<https://nextpublishing.jp/>

『これからの「教育」の話をしよう 5 教育改革 × Society5.0』発行 出口治明氏ほか 18 人が語る「学びの実践」新時代

インプレスグループで電子出版事業を手がける株式会社インプレス R&D は、『これからの「教育」の話をしよう 5 教育改革 × Society5.0』(編者:学校広報ソーシャルメディア活用勉強会)を発行いたします。

『これからの教育の話をしよう 5 教育 × Society5.0』

<https://nextpublishing.jp/isbn/9784844378600>



編者:学校広報ソーシャルメディア活用勉強会
小売希望価格:電子書籍版 1800 円(税別)/印刷書籍版 2200 円(税別)
電子書籍版フォーマット:EPUB3/Kindle Format8
印刷書籍版仕様:A5 判/モノクロ/本文 264 ページ
ISBN:978-4-8443-7860-0
発行:インプレス R&D

<<発行主旨・内容紹介>>

少子化、グローバル化、デジタルテクノロジーによるスマート化が進展する Society5.0 の到来など、社会環境が急激に変化している現在、教育の現場に求められることも大きく変わろうとしています。そんな中で、現場からいち早く改革を進めている人たちは、新しい時代をどのように捉え、何を実践しているのでしょうか。

本書は、2000 名以上の教育関係者が集まる Facebook 上のグループ、学校広報ソーシャルメディア活用勉強会(略称:GKB48)による、教育改革をテーマにした人気書籍シリーズの第 5 弾です。

第 6 回 GKB48 教育カンファレンス「教育改革と動き始めた教育の現場」での 16 人のプレゼンテーションに加え、立命館アジア太平洋大学(APU)学長である出口治明氏、梅光学院理事長である本間政雄氏の著名人インタビュー

一を掲載し、新時代の学びの実践を多角的な角度から解説しています。

2020年以降の教育改革の実践に、ぜひ本書をご活用ください。

(本書は、次世代出版メソッド「NextPublishing」を使用し、出版されています。)

第1章 新しい時代の大学教育より

1-1 新しい時代に大学生が身に付けるべき教養とは

～APU(立命館アジア太平洋大学)学長 出口治明氏に聴く

グローバルな時代に大学生が身に付ける教養について、APU(立命館アジア太平洋大学)の出口治明学長にインタビューをしました。(インタビュー：学校広報ソーシャルメディア活用勉強会 事務局長 山下研一)

日本の大学の持つ国際競争力

山下 世界大学ランキングにおいて、日本の大学のランキングは低いといわれています。日本の大学の持つ国際競争力をどのように考えられますか。

出口学長(以下、出口) まず日本の大学の競争力は、トップは弱いけれど裾野は広い。世界の大学数は、2万3千校くらいあるのですが、その中で上位5%といえば、1千校くらいですよ。

THE世界大学ランキング2019によるとトップ1千校に入っている大学の数はアメリカが1番で、その次が日本で、3番が英国なのです。確かに、日本の大学は、トップ100には東大と京大しか入っていませんが、トップ1千校には、実は相当、入っているんです。だから客観的に見て、日本の大学は、トップ100には2校しか入っていないけれど、上位5%の1千校で見たらアメリカに次いで国際競争力がある。それが客観的に見た日本の大学が持つ国際競争力じゃないでしょうか。

教養は「知識×考える力」



APU(立命館アジア太平洋大学)学長 出口治明氏

山下 大学では、まず初年次教育として、リベラルアーツという話が出ます。一般的に、教養教育は大事ということはいわれています。

出口 昔さんは、「まずいごはん」より「おいしいごはん」を食べたいでしょう。「おいしいごはん」を因数分解すると、「いろいろな材料を集める」×「上手なクッキング能力」になります。同じように教養を因数分解すると「知識×考える力」となるでしょう。知識を得るだけでは意味がなく、考える力を鍛えなければなりません。

山下 昨今、「考える力」だけがすごく強調されているようにも感じます。

出口 これも料理と同じように考えれば良いと思います。いろんな材料を集めてきて、三ツ星シェフが用意したらおいしいご飯になります。

最近三ツ星シェフの価値が上がっていますよね。なぜかという、昔は食材に限られていたので、珍しい食材を持ってきたら何でもおいしかったのです。でも食材が誰でも自由に手に入るようになると、シェフの力の差が明確に出るようになるということです。

第2章 教育と広報より

2-6 課題解決型学修と地域活性化～地域連携活動には学びが介在【住吉廣行】

松本大学 学長 住吉廣行

これから、大学の「地域貢献」や「地域活性化」を考えるとき、その言葉遣いについて疑問を呈する話をします。松本大学のミッションは「地域貢献」ですが、そもそも、「地域貢献」という真意は何でしょうか。

「地域貢献」と「育成すべき人材」

地域の大学は、産業分野の「産」、行政分野の「官」、教育分野の「学」、公民館・NPO・町内会組織の「民」の中に位置します。松本では、「民」がかなりの力を持ち、これは松本大学の特徴にもつながっています。学生を「伸びる人材に育成し、地域で活躍してもらおう」と、主に県内の高校から多数入学していただいています。「地域で活躍」については、県内の「産」に送り出す、あるいは「官」に送り出す、「官」と協働しているいろいろな政策提言もしています。また、「民」の人たちとも連携しながら、地域文化の振興や継承にも関わっています。そうした学生を中心に据え地域と連携した活動を行うことが「地域貢献」であると、私たちは考えています。

松本大学は、学生をどう育てようとしているのか、育成すべき人材とは何なのか、いわゆるディプロマポリシー(学位授与の方針：DP)の三つの柱について話します。

DPの一つ目の柱は、まず専門性をきちんと身に付けさせることです。各学部・学科に特徴的な専門性を、ただ知識として持っているだけでは

なく、「課題解決型能力」としての専門性です。自ら学び、やらされ感のない学修をしてもらいます。

同時に、専門性を発揮するときには、昔からずっと言われているような「専門のことしか知らない人」にならないよう、専門性のベースとなる「幅が広くて深い教養」を身に付けさせなければいけません。これが二つ目の柱です。

それから、社会に出れば、他の人たちと協働して活動していかなければいけませんから、そういうときに必要な「コミュニケーション力」は、社会人の基礎力として身に付けさせます。これが三つ目の柱です。

アドミッションポリシーにおける「地域連携」「異文化交流」

DPに続けて、アドミッションポリシー(入学者受入の方針：AP)の話します。基本的に地域社会を活性化しようとする意欲を持った学生に入学してもらいたいと考えています。松本大学の入学者は、80～85%が県内高校出身の学生です。私たちは、各高校に「学生がこのように地域で活躍していますよ」と、大学の実績を提示しています。



第3章 教育とICTより

3-1 AIエンジニアを社内で育成するのに重要な3つのこと [石川聡彦]

株式会社アイデミー 代表取締役CEO 石川聡彦

私は現在、日本最大級のAI人材育成プラットフォーム「アイデミー (Aidemy)」というサービスを提供しています。AIといえば、私のイニシャルはAIです。皆さんの中に、イニシャルがAIの方はいらっしゃいますか。いらっしゃらないですね。それでは恐らくこの中で一番、私はAIに詳しいと言えると思います。ちなみに私は元歌舞伎役者であり、6年間、歌舞伎の舞台に立っていました。皆さんの中に、元歌舞伎役者の方はいらっしゃいますか。恐らくそこも私は唯一だろうと思います。

アイデミーでは、AIすなわち人工知能プログラミングをテーマとしたオンライン学習サービスを提供しています。今日は、それを社会人向けにどう提供しているのかという話をします。

ミッションは「社会とテクノロジーをつなぐ」

社内メンバー



今月からオフィスを東大本郷キャンパス内に移転。
社員人数15名程度のベンチャー企業です。

アイデミーは、「社会とテクノロジーをつなぐ」というミッションにより創業されました。融資は、東京大学系のベンチャーキャピタルUTEC (東京大学エッジキャピタル) 他、個人投資家の方々から受け、会社を運営しています。社員数は、経営陣と社内のメンバーを合わせて15名程度 (2018年8月現在) のベンチャー企業です。

オフィスは今月 (2018年8月) から、東京大学の本郷キャンパス内のビル「東京大学アントレプレナープラザ」に移転しました。このビルにはもともと、先輩起業家である出雲光社長により創業されたユグレナという会社も入居していました。このオフィスでは、東大出身の起業家もしくは東大系のテクノロジーを使って、会社を創業する方が多くが活動しています。

私たちはプログラミング学習サービスを行っていますが、中学生・高校生向けではなく、基本的には社会人向けに提供しています。さらに、プログラミング学習というテーマにおいては、人工知能 (AI)、ブロック

<<目次>>

第1章 新しい時代の大学教育と改革

- 1-1 新しい時代に大学生が身に付けるべき教養とは～APU(立命館アジア太平洋大学)学長 出口治明氏に聴く
- 1-2 大学改革を実現するために何が必要か～梅光学院理事長 本間政雄氏に聴く

第2章 教育と広報

- 2-1 オーガニックに、つながりながら働く[江藤由布]
- 2-2 マッキー先生の屏風「落葉」出前授業～福井県の挑戦～[牧井正人]
- 2-3 30年後を見据えた幼小一貫教育の可能性～東京にワイルドでアカデミックなスクールをつくりたい！
- 2-4 地方私学からの『人口減社会』への挑戦[大谷真樹]
- 2-5 地方・小規模を強みに変える覚悟[大森昭生]
- 2-6 課題解決型学修と地域活性化～地域連携活動には学びが介在[住吉廣行]
- 2-7 教育改革に求められるパブリック・リレーションズ[井之上喬]

第3章 教育とICT

- 3-1 AI エンジニアを社内で育成するのに重要な3つのこと[石川聡彦]
- 3-2 JMOOC 講座「MOOC 制作時の著作権等の権利処理ガイドライン」制作の裏側[我妻潤子]
- 3-3 学外の学びの活性化～システムを活用したPBLの遠隔支援[白澤秀剛/和田康浩]
- 3-4 大学教育や業務におけるICT活用～東洋大学での事例[藤原喜仁]
- 3-5 教育と映像のこれから～誰もが創造できる「学び」への使い方[品田健]
- 3-6 学びのゴールはアウトプット！～プレゼンテーションからムービーへ[平井聡一郎]
- 3-7 eラーニングの未来～創像的破壊力[岸田徹]

<<著者紹介>>

学校広報ソーシャルメディア活用勉強会(GKB48)

2011年8月に第1回の勉強会を大宮で開催するとともにFacebookに非公開のグループを作成したことにより発足。略称 GKB48 の「48」は、47 都道府県+海外を意味する。学校広報に限らず、学校運営や教育問題、ソーシャルメディア、ICTに関心のある人が集まり、2020年3月現在では2000名を超えるメンバーを擁する。大学、専門学校、高等学校、中学校、小学校、学習塾、教育関連・情報関連企業、NPO 法人ほか、それぞれの立場にある人々が、「教育」「ソーシャル」「広報」というテーマのもと、組織を超えて教育への思いを発信・共有し、未来の「教育」をつくることを目指す。ソーシャルメディアの活用や教育の未来などについてオンラインで意見、情報の交換を行っているほか、メンバーが会場に集まっての勉強会も実施している。教育カンファレンスは、2012年に第1回を開催以来、2019年まで、計7回実施。このたび、2018年に実施した第6回のスピーチ内容を採録した書籍の発行に至る。

<http://gkb48.com/>

<<販売ストア>>

電子書籍:

Amazon Kindle ストア、楽天 kobo イーブックストア、Apple Books、紀伊國屋書店 Kinoppy、Google Play Store、honto 電子書籍ストア、Sony Reader Store、BookLive!、BOOK☆WALKER

印刷書籍:

Amazon.co.jp、三省堂書店オンデマンド、honto ネットストア、楽天ブックス

※ 各ストアでの販売は準備が整いしたい開始されます。

※ 全国の一般書店からもご注文いただけます。

【インプレス R&D】 <https://nextpublishing.jp/>

株式会社インプレス R&D(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:井芹昌信)は、デジタルファーストの次世代型電子出版プラットフォーム「NextPublishing」を運営する企業です。また自らも、NextPublishing を使った「インターネット白書」の出版など IT 関連メディア事業を展開しています。

※NextPublishing は、インプレス R&D が開発した電子出版プラットフォーム(またはメソッド)の名称です。電子書籍と印刷書籍の同時制作、プリント・オンデマンド(POD)による品切れ解消などの伝統的出版の課題を解決しています。これにより、伝統的出版では経済的に困難な多品種少部数の出版を可能にし、優秀な個人や組織が持つ多様な知の流通を目指しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス(本社:東京都千代田区、代表取締役:唐島夏生、証券コード:東証1部 9479)を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「旅・鉄道」「学術・理工学」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

【お問い合わせ先】

株式会社インプレス R&D NextPublishing センター

TEL 03-6837-4820

電子メール: np-info@impress.co.jp